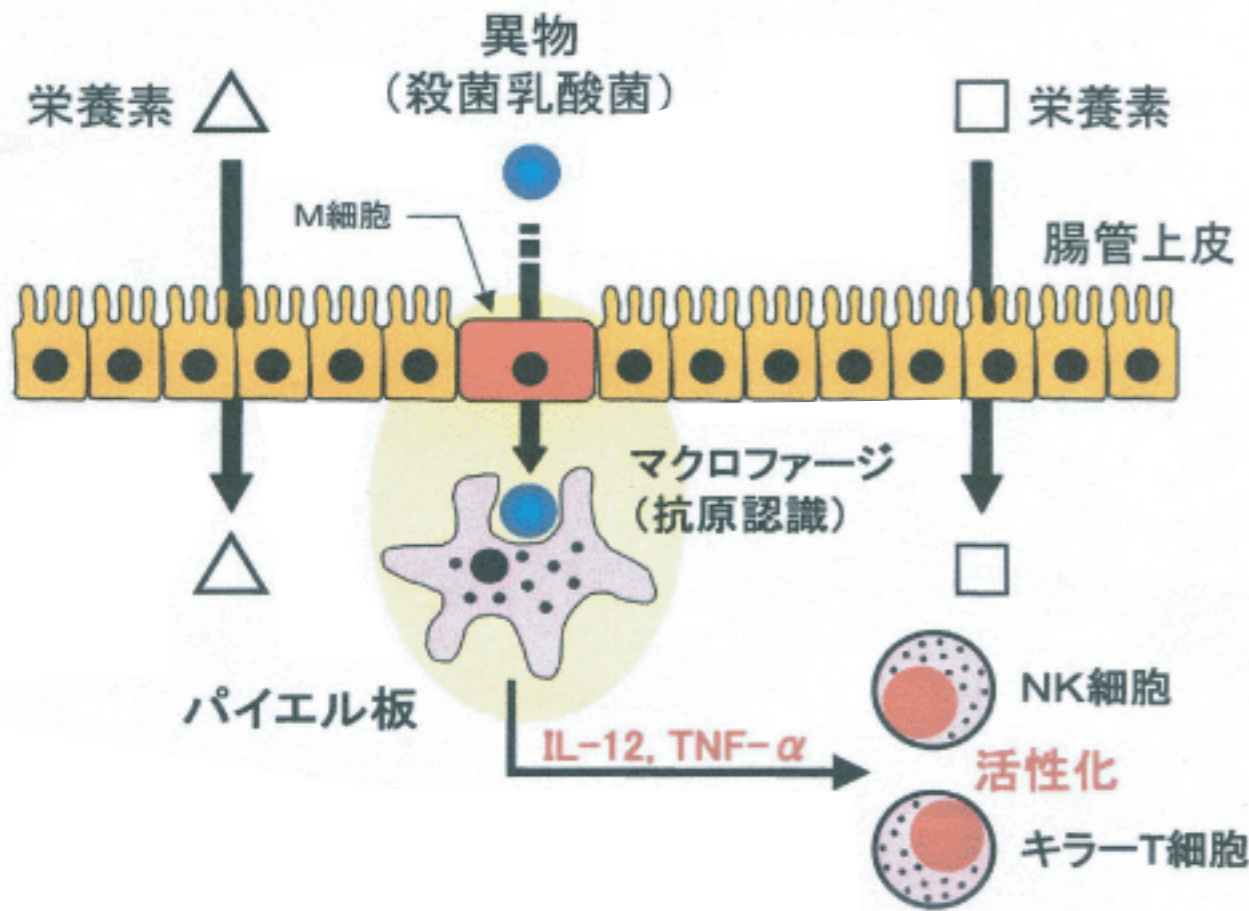


どうして乳酸菌EC-12が殺菌されていても効くのか？なぜ菌数が必要なのか？

食物は吸収されやすい低分子化まで消化分離され、腸管上皮細胞から吸収されます。これに対し、殺菌乳酸菌EC-12は消化分離されずに、細胞のまま腸まで到達します。腸にはパイエル板という大きい分子の物質を異物として認識し、そのまま取り込む特別な器官が存在します。微生物などはその生死に関わらずパイエル板に取り込まれます。生体はパイエル板で認識した異物に対して必要に応じて抗体を産生したり、白血球を活性化させたりして防御機構を発揮します。(=免疫)



乳酸菌などの有用微生物(有用菌)は、生体に悪影響を及ぼさないにも関わらず異物として認識され、免疫を向上させることが知られています。人のパイエル板は80~120個しか存在しないので、パイエル板に取り込まれる菌体数を多くするためには出来るだけ大量の菌数を摂取する方が取り込まれる確率は高くなります。

がんとは何か？

・人の体を構成する細胞の数は、約60兆個と言われています。これだけの数の細胞が秩序正しく配列し、それぞれの機能を果たしています。

・がんは、体内の正常な細胞が様々な原因で突然変異(遺伝子異常説)を起こし、もとの細胞とは異なる細胞に変化して、急激に増殖(無秩序に増える)する疾患です。生じたがん細胞はもとの正常細胞の持っていた機能を失い、どんどん増殖していき、器官自体の機能が出来なくなり、機能不全におちいります。

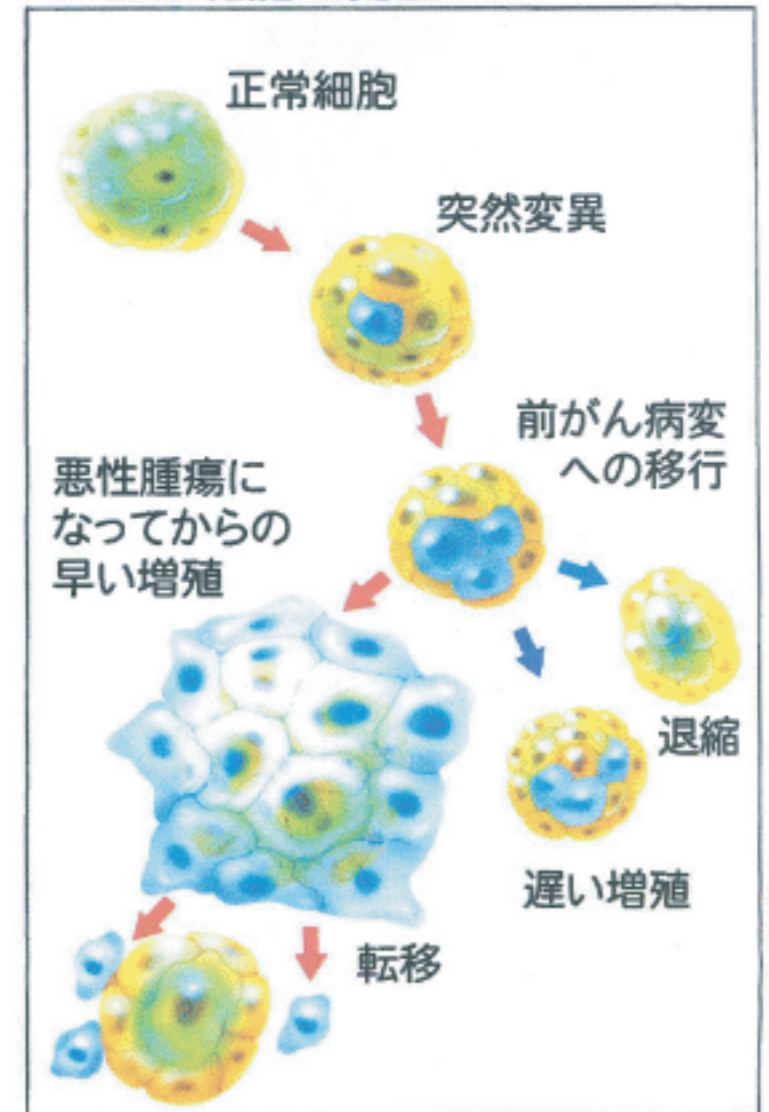
がん細胞

・体内に発生するがん細胞は、1個の正常細胞ががん化したものです。正常細胞に発がんを促進する要因が加わると、細胞の遺伝子の突然変異や、細胞をがん化させる命令を持つ発がん遺伝子が活動をはじめ、発がんの引き金が引かれます。発がん要因は多種多様です。

・通常は、発がん要因は排除され、あるいは遺伝子の異常は修復されますが、さらにがん化を促す因子が加わることによって、がん細胞は増殖を続けます。発がんの引き金を引く因子には、種々の発がん物質や放射線、発がんウイルスなどがあります。

・誕生したがん細胞は、勝手にぐんぐん増殖し、体をむしばみ続けます。この時、大切なのが免疫力です。

■がん細胞の発生



■がん細胞の増殖

